

Tsuda Today

no.
85

index

P.① 國枝マリ教授学長就任挨拶、略歴

P.② 飯野正子学長退任挨拶、新学長補佐紹介、
協定調印式 他

P.③ 記念会&ホームカミングデー報告

P.④ 第13回高校生エッセーコンテスト

P.⑤ 津田梅子賞贈賞式、津田梅子記念礼拝

P.⑥ 山根奨学基金、課外活動奨励金

P.⑦ 課外活動奨励金受給団体紹介

P.⑧ 女子学生のためのメディア工房、
日本語ライティング講座報告

P.⑨ 「大学間連携共同教育推進事業」採択報告

P.⑩ 寄付者ご芳名、理事会評議会報告 他

P.⑪ 留学生紹介、最終講義のご案内、入試日程他

P.⑫ 公開講座、お知らせ、学生の活動

発行日 2012年11月27日
発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
Tel.042-342-5113
Fax 042-342-5121
<http://www.tsuda.ac.jp/>

新学長に國枝マリ教授が就任

明日の津田塾大学をつくるために

本年10月末の飯野正子学長の任期満了に伴い、本学の新しい学長に国際関係学科の國枝マリ教授が就任されました。任期は2012年11月1日から2016年10月31日までの4年間です。

〈ご挨拶〉就任にあたって

学長 國枝 マリ

8年間の長きにわたり、津田塾大学学長として大学の発展に多大な貢献をされました飯野正子先生のあとを引き継ぐかたちで、11月1日をもって学長に就任することになりました。津田塾大学に奉職して20年ほどたちますが、その間、国際関係学科の教員として、さらに教職課程担当教員として教員・職員のみならずのご支援をうけながら全学の学生のためにと心がけて教育に当たって参りました。このたびの学長としての使命は、この延長線上にあり、なおかつそれを飛び越えた全く異次元の世界への挑戦となることと考え、その責任の重さを痛感しております。歴代の学長には遠く及びませんが、大学の未来にむけて尽力するつもりです。

21世紀に入り、大学をとりまく環境はますます厳しいものとなっております。18歳人口の減少は言わずもがなですが、世界的不況に翻弄されてこのところ全く好転のきざしが見られない経済状況のなかで、全国各地から有望な学生を集めることの難しさも現実として受け止めなければなりません。そこに昨年の東日本大震災です。津田塾大学でも被災地からの受験生・在学生を応援するために、受験料免除や入学後の授業料の減免、生活費の支援をしていますが、これはひとえに各方面から多大なご寄付をいただいたことによるものとみなさまのバックアップに感謝しております。

そんななかでも私たちが絶え間なく目指して来たものは、質の高い女性のための高等教育機関です。学内外に対して長年アピールしてきた語学教育も変化するニーズに応じて中身を徐々に充実させてきました。その一方で女性たちにとって新たに開かれつつある世界への扉も提供しなければ高校生の目には現代的に見えません。学科の形はとっていないものの、従来から大学が内に育んで来た経験と

力を外から見える形にする試みが、近年実現してきた学科横断型のコース、すなわちスタートして10年になるうとしている多文化・国際協力コースと続いて開設されたメディアスタディーズ・コースでしょう。コースを選択した学生が充実した学業と体験を積めるように、そして有意義な社会貢献ができるように、大学は今後ともこれらを大切に育てていきたいものです。

また近年は、大学教育をめぐる現代的ニーズにこたえるためのプロジェクトを推奨する目的で外部資金が各種提供されるようになってきました。新たなことを始めるには勇気も資金も必要ですが、それを後押ししてくれるのがこの外部資金によるプロジェクトだと考えます。津田塾大学でも、教員による通常の科学研究費補助金の獲得に加え、女性研究者の支援、書く力の育成、在学生および卒業生の就職支援、女子中高生の理系分野の体験学習等、未開拓の分野での大学の役割を手がけるきっかけを得ました。それをどのような形で大学独自の教育活動に取り込んで行くかはこれからの課題です。

もうひとつ津田塾大学には新しいキャンパスとして千駄ヶ谷の存在があります。現職教員と学部新卒学生がともに学びあう大学院文学研究科英文学専攻英語教育研究コース、教育研究機構によるプロジェクト、津田塾会の経験を引き継いだオープンスクールのほか、津田ホールの活用をとおして地域貢献も実施してきました。それに加えて数年にわたって討議が重ねられて来た千駄ヶ谷の更なる活用を今や実践に移すことが求められています。

津田塾大学をとりまく環境は安易なものとはいえません。しかし振り返れば、1900年の女子英学塾創設以来、先輩たちは幾多の課題を知恵と勇気をもって乗り越え、現在の津田塾大学を実現されました。そしてこの学び舎の卒業生による活躍も社会から高く評価されてきました。私はこの足跡を大いに誇りに思います。これからは大学関係者、在学生とご家族、同窓生の皆様とともに明日の津田塾大学をつくるために前進したいと思いますので、ご助言、ご支援をお願い申し上げます。



略歴

学歴 1969年3月 津田塾大学文学部英文学科卒業
1978年5月 米国コロンビア大学大学院(M.A.取得)
1979年5月 同上 (M.Ed. 取得)
1983年10月 同上 (Ed.D. 取得)

職歴 1970年10月～1974年6月 (財)海外技術者研修協会
1985年4月～1988年3月 津田塾大学(非常勤講師)
1987年4月～1989年3月 NHKラジオ上級基礎英語(講師)
1988年4月～1992年3月 北海道東海大学(助教授・教授)
1992年4月～1998年3月 津田塾大学(助教授)
1998年4月～現在 同上(教授)

学内役職 1998年4月～2001年3月 教職課程委員会委員長
1999年4月～2001年3月 国際関係学科主任
2002年4月～2003年3月 広報会議委員

2003年4月～2003年9月 学長補佐代行
2005年4月～現在 学校法人津田塾大学 評議員
2005年4月～2010年3月 財務会議委員
2011年4月～現在 同上

学会等公的機関における活動

1982年～現在 異文化間教育学会(理事)
1984年～現在 日本比較教育学会
1994年～現在 Comparative & International Education Society (USA)
1997年～現在 日本教師教育学会
1993年～1999年 文部省教科用図書検定調査審議会委員
2000年～2004年 東京地区教育実習研究連絡協議会(運営委員)
2004年 文部科学省(2ヶ月間アフガニスタン派遣)
2005年～2007年 日本私立大学連盟(教育研究委員会委員)
2008年 日本学術振興会(科学研究費委員会専門委員)

退任

飯野正子学長、任期満了

飯野正子先生は、1978年に本学専任教員として着任され、2004年11月からは学長として、大学を取り巻く環境が激しく変動する困難な時期に、2期8年に渡って本学の運営にご尽力くださいました。

任期満了にあたり、飯野先生よりメッセージをいただきました。

本年10月31日をもちまして、学長としての任期2期8年を満了いたしました。この8年のことをゆっくりとふりかえるゆとりは、まだありませんし、ふりかえたとしても、学長として大学のためにどれほどのことができたのか、みきわめることなど不可能でしょう。今は、至らなかった点ばかりが、甦ってきます。とはいっても、大学のためを考えて尽くしてきたという満足感は味わっております。そして、こうして満足感を味わうことができますのは、ひとえに、教職員のみならずのご協力、理事会・評議員会のご理解、そして、卒業生、在校生、保護者のみなさまが支えてくださいましたからこそで、深く、深く、感謝しております。たくさんのかたがたの津田塾大学への熱い思いが、私を励まし、勇気づけてくれたのです。

この8年間は、日本社会全体が大きな変化を経験した時期でもありました。少子化や経済不況の影響を受け、大学間の競争がますます厳しくなり、大学はいろいろな挑戦を強いられました。このような状況で、数え切れないほどのことに取り組みました。教学面では、数学科と情報科学科の設置、TECC設立、メディアスタディーズ・コースおよび文学研究科英語教育研究コースの開始などなど、学生の勉強意欲を高める工夫がなされました。外部資金とFDのサポートのため研究支援室を設置し、文科省の支援を得た数多くの取り組みが実施されました。女性研究者支援センター、ライティングセンター、ソーシャル・メディア・センター、英語カリキュラム協調開発、就職支援プログラムなど5つもの大型プロジェクトが平行していた年もあります。最新の成果としては、大学間連携共同教育推進事業において本学と関西大学の共同プロジェクトが採択されました。

2008年、同窓生の血と汗の賜物である千駄ヶ谷の土地が津田塾会から本学に寄贈され、千駄ヶ谷キャンパスが開設されましたが、これは本学の歴史に残ることでしょう。そこでは、オープンスクールや教育研究機構が始まり、さらに新教育組織が、教授会と理事会での長期にわたる議論から、いままさに生まれようとしております。教職員をはじめ、多くのかたがたが関わって前向きな議論がなされたことは、本学の歴史をふりかえると同時に、10年先、50年先、さらに100年先の本学の姿を考える機会でもありました。これまでの議論に基づいて、千駄ヶ谷キャンパスがいっそう有効に活用され、津田塾大学の本領が発揮されることを願う次第です。

津田塾大学創立110周年記念事業は、ほぼ3年をかけて完了しました。記念式典を始め、いくつもの事業のなかでも特に、教室やホールの中にまで緑を取り込んだようなさわやかな設計の「7号館」と、学生の住みやすさのための工夫が盛り込まれた新「白梅寮」が、記念建築として完成したことは、誇らしいことです。

東日本大震災は、本学にとって第二次世界大戦時の状況を思い起こさせる緊急事態でした。卒業式や入学式をはじめとする大学としての重要な行事は中止とし、学生のための特別措置がいろいろと実施されました。とくに被災した学生を応援する奨学金の開始・継続には、同窓生や在校生の保護者のご寄付が大きな助けになりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

この8年間に、津田塾大学を、そして学長の私を、支えてくださった多くのかたがたに感謝し、これからは、私も同窓生の一人として「支える人」になり、津田塾大学のさらなる発展のために尽くしたいと思っております。ありがとうございました。



飯野正子学長は2012年11月1日付けで
学校法人 津田塾大学理事長に就任されました。

新学長補佐体制について

2012年11月から新たな教授3名が学長補佐に

國枝学長の下での学長補佐体制については、次の3名の教授が、2012年11月からそれぞれ担当することになりました。



Mary E. Althaus

英文学科教授
学務担当



新本 史斉

国際関係学科教授
広報・学生担当



小川 貴英

情報科学科教授
財務担当

東京外国語大学との協定調印式が行われました

9月21日（金）、本学と東京外国語大学との「教育・研究交流協定書」、「単位互換に関する協定書」の調印式が東京外国語大学にて行われました。調印式には東京外国語大学から亀山郁夫学長、金口恭久理事、栗田博之副学長、立石博高副学長、富田章教務課長が出席され、本学からは、飯野学長、池内学務担当学長補佐、瀬川教務課長が出席しました。（本学出席者の肩書きは調印式当時のもの）

本学と東京外国語大学は、2004年に始まったEUIJコンソーシアムの単位互換協定による実績を積み重ねてきています。このたび締結し

た協定では、教育や学術研究の面でのさらなる協力や連携を図り、社会にその成果を還元することを目的としています。

2013年度よりこの協定による2大学間の単位互換を開始する予定です。



津田梅子記念会&ホームカミングデー報告

同窓会副会長・国際関係学科教授 井上 則子

津田塾大学の同窓生が懐かしの学び舎を訪れ、旧交を深める津田梅子記念会&ホームカミングデーが、10月7日（日）に小平キャンパスで開催されました。記念会は飯野正子学長と久保内総子同窓会長の挨拶に始まり、その後、記念礼拝が行われました。説教者は早稲田大学政治経済学術院教授・国際基督教大学名誉教授の最上敏樹先生で、『初めにイエスが裏切られた』というテーマで、生きていくことに伴う人間の苦しみをお話し下さいましたが、その聡明な語り口に同窓生は深く聞き入っていました。

記念礼拝後、津田梅子賞贈賞式と高校生エッセー・コンテスト表彰式が行われました。今年で3回目となる津田梅子賞の受賞者は、三重大学の理事・副学長の朴恵淑（ぱく けいしゅく）氏でした。朴氏は日本の国立大学における外国人初の理事・副学長である一方、環境地理学の国際的な研究生活を精力的に行っていることが高く評価されての受賞でした。第13回高校生エッセー・コンテストでは、高志高等学校（福井県）3年生の藤内秋桜（ふじうち こうすもす）さんが最優秀賞を受賞しました。表彰式では「次世代の育成に生涯を捧げた津田梅子宛に書いた手紙」を、藤内さん自身が凛とした声で朗読してくれました。

午前中はあいにくの雨でしたが、午後になってようやく晴れ間が見え始め、それに誘われるかのように、同窓生が次々とシンポジウム「塾女たちの『社会貢献』—私の選んだ道」に集い始めました。今年のパネリストの4人は、当日同期会を開催する卒業50周年、40周年、30周年、20周年から、同期会を通して推薦していただいた方々です。本学は単一学部でありながら、同窓生が多様な分野で活躍しています。北原糸子氏（立命館大学歴史都市防災研究センター教授、英大11）、大森礼子氏（弁護士、英大21）、永春幸子氏（小児科医師、数大30）、野口扶美子氏（認定NPO法人持続可能な開発のための教育10年推進会議国際プログラムコーディネーター、国大20）が、自分が選んだ道における「社会貢献」について語って下さいました。パネリストの方々は、弱い立場にある人たちに寄り添う姿勢を共通して持っており、「多

くを得た人の多くを与える責任と勇気」に溢れていました。会場はパネリストを応援する同期会の皆さんや同窓生等で満席となり、懐かしさと活気に満ちたシンポジウムになりました。

記念会の全てのプログラムが終了した後、恒例の多文化・国際協力コース運営委員会主催のラウンドテーブル シンポジウムが開催されました。国際協力等の現場で働く若手の同窓生を迎えての企画でしたが、将来、国際協力関連の仕事に携わりたいという在学生在が多数参加し、熱心に話を聞いていました。

この他にも種村千明氏（国大28）のきり絵展示『紙片を紡ぐ』、津田梅子資料室の企画展『津田梅子の妹—安孫子余奈子—太平洋をこえた姉妹の絆』、小・中学生のための英語を使った国際交流、茶道部によるお点前などの企画がありました。尚、種村氏のきり絵は津田梅子記念会&ホームカミングデー当日のパフレットの表紙にも使われており、会に彩りと華やぎを添えてくれました。



▲ 久保内総子同窓会長あいさつ



▲ 記念会パンフレット表紙



▶ シンポジウム
「塾女たちの『社会貢献』
—私の選んだ道」

～次世代の育成に生涯を捧げた～津田梅子に手紙を書こう

第13回高校生エッセー・コンテスト結果発表

10月7日（日）、津田梅子記念会において、第13回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表と最優秀賞受賞者の表彰式が執り行われました。また、最優秀賞受賞者の藤内秋桜（ふじうち こうすもす）さんが、受賞作品を朗読されました。

応募総数：38編 女子36名／男子2名
応募言語：英語作品20編／日本語作品18編

最優秀賞1名（敬称略）

藤内 秋桜 高志高等学校 3年（福井県）（日本語）

優秀賞1名（敬称略）

玉川 亜咲実 渋谷教育学園幕張高等学校 1年（千葉県）（英語）

最優秀作品及び優秀作品は、本学ウェブサイトに掲載予定です。



表彰式の様子



受賞者、学長、選考委員

第13回 高校生エッセー・コンテスト最優秀作品紹介

いのちへの謙虚さ

福井県立高志高等学校 3年 藤内 秋桜

自分自身や他について知ることから湧きあがる真の謙虚さ、個人の責任意識、深い自制心、これらを持って世界で貢献する、そして、知恵や知識の聖火を世代から世代へと受け継いでいく。先生が1912年の卒業式で読まれた式辞を拝読し、これらの言葉が私の胸に響いてきました。

私の祖父は、私が4歳の時にガンで亡くなりました。当時、私の家では鶏を飼っており、早朝から鳴き声をあげていました。雌鶏が温めた卵からヒナが誕生し、成長して親になりました。ヘビが卵を飲み込んだこともあります。大学で生物学を教えていた祖父は、亡くなる半年ほど前、一時退院した時に、庭で一羽の鶏の解剖を見せてくれました。祖父が、残された体力をふりしぼって私のために解剖を見せてくれたのは、私たちのいのちが、様々な生き物のいのちとつながっているということを自分で知ることの大切さを伝えたかったからだと後に聞きました。スーパーで買ってくるだけではわからない真実です。

鶏が庭の木にぶらさがられているその写真には、体調が優れない中、バジャマ姿のまま鶏を眺める祖父と4歳の私が写っています。この写真を見ると、身が引き締まり、体験から学ぶ知識の尊さを感じるとともに、地球上で、様々ないのちとともに生かされていることの有難さが湧きあがってきます。

先生は、プリンマー大学で、生物学を研究されたのですね。山崎孝子著『津田梅子』（人物叢書）には、「生命の神秘を究めてゆく生物学研究

に深く心を惹かれた」と書いてありました。蛙の卵の発生に関する研究で、先生はどのような驚きや感動をみつけたのでしょうか。生命の神秘を知ることによってどのような気持ちになりましたか。そして、それは後に先生がめざした教育の中で息づいているのではないのでしょうか。

私は、式辞の言葉を読んで、祖父のことを思い出し、私に伝えようとしてくれたことを考えることができました。それは、人間も一つの生き物にすぎないという謙虚さです。また、最も自然界に影響を及ぼす立場の者が持つべき責任や自制心、思いやりや慎み、愛についてです。そして、それは世代から世代へ受け渡していくべき叡智ではないかと思いました。

私がこれからめざしていきたいことは、人間がこの地球上で生かされている事実謙虚になり、地球上のいのちある全てのものが健康でいられるために私たちは何をすべきであるのか、自分は何を次の世代に伝えることができるのかを探求していくことです。先生や祖父とこれらのことについて話してみたいです。これから大学に進学し、真の叡智を学んだ時に初めて感じることでできる謙虚さについて、もっともっと多くのことを体験し、真摯に学んでいきたいと思っています。そして、次の世代に受け渡していくべきことをみつめていきます。どうか見守って下さい。

第13回 高校生エッセー・コンテスト 講評

審査委員長・英文学科教授 高橋 裕子

2012年度エッセー・コンテストでは、1900年の女子英学塾（津田塾大学の前身）を創設して12年経た、第10回の卒業式で津田梅子が読んだ式辞をテーマとして扱いました。今年はロンドンでオリンピックが開催されましたが、この式辞のキーワードは、聖火リレーの松明（たいまつ／トーチ）です。聖火をつなぐリレーをメタファーにしたこの式辞では、次世代の育成に生涯を捧げた創立者の教育にける理想や、学生に寄せる期待が込められています。松明（たいまつ／トーチ）を持つ走者になった際の一人ひとりが担う責任の意味、すなわち、次の世代に知識や知恵、文化をつないでいくことの重要性和、その行為の延長線上にある、社会に貢献する力量を兼ね備えた人を育てるという理念が、創立者津田梅子が大切にしていた基本的な価値、コアバリューズとして表現されています。

日本の女子高等教育の必要を痛感して女子英学塾の礎を築き、創立12年後のまさに塾がようやく軌道に乗ってきた時期に、教師としての自分の願いと次の世代にこの松明（たいまつ／トーチ）をリレーしてつないでほしいという熱い想いを卒業生に語った47歳の津田梅子。ここから現代社会に生きる高校生の皆さんが何を汲み取るのか、私達も楽しみにしていました。

今年度は、応募総数38件、うち英語20件と昨年度より応募して

下さった作品数は少なかったのですが、この課題文書の意を受け、それを自分なりに発展、展開した作品が数多くありました。特に、ご自分の経験や考察から津田梅子の式辞の意味を今に置き換えて語って下さる方がたくさんいらっしゃったのは頼もしい限りでした。

最優秀賞の藤内秋桜さんは、津田梅子が百年前に読んだ式辞を丁寧に読み、印象に残った言葉を紡ぎながら、ガンで亡くなられたおじいさまが生前、命がけで伝えようとしたメッセージを思い起こしました。おじいさまと4歳の藤内さんが写っている写真にまつわるエピソードを軸に、地球上のいのちが、さまざまないのちとつながっていること、真実が世代を超えて伝えられていく重みを、見事に描写した秀逸なエッセーでした。毎年エッセー・コンテストに応募し、優秀な成績を残してきた藤内さんの、高校生活最後にふさわしい、素晴らしい作品となりました。表現や構成もしっかりと練られ、段落や読点など、細かいところにも目配りがきいています。最優秀賞にふさわしい作品であると審査委員会全員一致で高い評価を得ました。

最後になりますが、今年度の津田塾大学高校生エッセー・コンテストに応募してくださった皆さん、また、協力してくださった皆さんに感謝して、講評の結びといたします。

津田梅子賞贈賞式が行われました

本学創立110周年を記念して創設された「津田梅子賞」は今年3度目の実施を迎え、「津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来を拓く可能性への挑戦を顕彰する」という本賞の目的に基づき厳正なる審査を行なった結果、今回の贈賞者は朴恵淑（ぱく けいしゅく）氏に決定しました。

10月7日（日）、津田梅子記念会において贈賞式が執り行われ、表彰状と副賞の目録が授与されると共に朴氏より受賞スピーチをいただきました。

■ 受賞者紹介 朴 恵淑 氏（国立大学法人三重大学理事・副学長）

専門は環境地理学。1983年韓国梨花女子大学大学院修了後、1987年に筑波大学大学院修了（博士号取得）。1995年に三重大学へ助教授として着任し、2011年には日本の国立大学における外国人初の理事・副学長になる。

研究者として、人文社会科学、自然科学、工学、医学との融合による総合環境学である「四日市学」を構築する一方、民間レベルの国際環境ネットワークを構築し、世界の環境交流の活性化を図る。更に三重大学においては、留学生の就職支援及び女性研究者支援のため、行政・NPO・企業・大学間の連携を図る取り組みの牽引役となっている。

国立大学での外国人女性キャリアの先駆者であると共に、研究者としてもグローバルとローカルの視点を併せ持つ同氏の幅広い活動は、津田梅子賞の掲げる趣旨にふさわしい優れた取り組みであると評価される。



■ 受賞者スピーチ（要約）

三重大学の朴恵淑と申します。29年前に韓国から日本へ留学して以来、日韓の架け橋になりたいと思い、常に両国のアイデンティティーを忘れないよう、名字は韓国読み「ぱく」、名前は日本読み「けいしゅく」で通しております。

この度名誉ある「津田梅子賞」を頂き、これまでにやってきたことが認められた嬉しさと共に、国際情勢が厳しい中、外国人である私を選んでくださった選考委員の皆様に深く感謝致します。

「津田梅子賞」へ強くご推薦くださったのは、三重大学長の内田淳正先生でした。2007年に三重大学学長補佐、2011年に国立大学として初めての女性理事・副学長として就任したのも、内田先生の前例にとられない決断があつてのことです。私の教育者としての活動と大学への思いに対して、一番の理解者が組織のトップであったことは幸せに感じています。また今日に至るまで多大な応援を頂いた日韓の皆様とともに、この喜びを分かち合いたいと思っております。

私の専門分野は環境地理学で、21世紀最大の環境問題である、地球温暖化防止や生物多様性保全、大気汚染、水質汚濁などの自然科学的研究を行うと同時に、環境意識の向上を図る実践的環境教育や国際環境協力のあり方を探っています。特に東アジアの日中韓及び北朝鮮、モンゴル、極東ロシア地域の大学、行政、企業、NPOとの連携による国際環境ネットワークを構築し、グローバル環境人財の育成に力点を置いています。

私の住む三重県は、1960年代に四日市公害で苦しんだ地域です。そこで私は、ローカルな地域を起点とした新しい環境学として、四日市公害の教訓から学ぶ「四日市学」を構築し、過去の負の遺産を未来の

正の資産に替えるべく、四日市公害の発生要因の究明、生物への影響調査、持続発展のための環境政策の提案、環境ビジネスの模索、環境意識の高い三重大学ブランドの人財を育成しています。三重大学を世界一の環境先進大学に導く牽引車として、環境と国際担当の理事・副学長をつとめている私の環境への取組を一言で表しますと、Think Globally, Act Locally!となるでしょう。

津田梅子先生は、140年も前に日本初の女子留学生としてアメリカへ留学した後、女子高等教育機関の津田塾大学を設立した日本の女子教育の先駆者であり明治を代表する偉大なる教育者であると同っております。生まれた場所を離れ、未知の世界へ旅立つ時のときめきと不安を、人間的成長に替える勇気と情熱、実力、魅力を併せ持ち、壮大な業績を成し遂げてこられた素晴らしい方であったと思います。私は本受賞を契機に日々精進し、津田梅子先生に一步でも近づきたい、生涯、Step by Stepで行きたいと願っております。

これまで私には、外国人初という冠が数多く付いていました。日本の国立大学における初の外国人かつ女性管理職、政府や自治体の審議会委員など…。今回の受賞が、日本人と外国人が共に未来を開いていく大きな一歩を踏み出す機会となることを切実に願っております。そして日本人と外国人との共生が違和感なく進む、成熟した市民社会形成のターニングポイントとなることを願いながら、受賞者のスピーチに替えさせていただきます。



津田梅子記念礼拝説教（要約）「初めにイエスが裏切られた」

マタイによる福音書26章20節～24節、27章45節～46節



人生で味わう悲しみの中で最悪のものの一つは、信頼していた人から裏切られることだと思います。裏切りを考える時、イエスが父なる神からも弟子たちからも裏切られたことを思います。

聖書にはユダの裏切りが記されていますが、ユダの裏切りは、私たちが経験する裏切りとは違うようです。理由が二つあります。一つは、予期されていたからです。ヨハネ6章64節に、「イエスは……自分を裏切る者がだれであるかを、知っておられた」とあります。二つに、神学者カール・バルトは、今の聖書で「裏切り」と呼ばれている言葉が、聖書の原典から、「引渡し」という意味であると発見しました。イエスを、神以外の誰も助けることができない状況に置き、神の力を世に示す役割をユダは果たしたという斬新な解釈です。イエスが初めに裏切られたことを想うこと、裏切りに

最上 敏樹 氏（早稲田大学政治経済学術院教授、国際基督教大学名誉教授）

耐える力、悲しむ力、他人の悲しみを知る力が与えられていることが、最も深い聖書の意味なのだと思います。

ボンヘッファーは、ヒトラー暗殺計画に加わり、絞首刑になりました。「これほど全てを神に委ねて安らかに死んでいった人を見たことがない」と彼の検視医は証言していますが、彼は著書の中で、「キリスト教の神は、僕たちを見捨てる、この世では無力で弱い神だ。弱いからこそ、僕たちを助けてくれるのだ」と言っています。見捨てる神に、強く支えられていることを信じながら死んでいった人です。「キリスト者は人生の終わりに、悲しみも苦しみも罪についてさえ、『この方がすることは何もかもすばらしかった』ということが許されている」とマルコ7：37に解釈をつけています。裏切られ、悲しみに満たされ、神に見捨てられ、なお信仰を保つ意味なのだろうと私は思います。悲しみを無理に忘れるのではなく、悲しみのなかに希望を保つ根拠があると思います。

山根奨学基金 2012年度奨学生発表

本学卒業生で日本初の女性外交官として、わが国のみならず広く諸外国の人々からも、その将来に大きな期待をかけられていた山根敏子さんが、惜しくも飛行機事故の犠牲となられて50余年になります。その山根敏子さんを記念して設立されたのが、この山根奨学基金であり、2012年には52周年を迎えています。

この奨学基金は、特に国際問題に関心を持つと同時に将来、世界人類の平和と幸福を増進するため、国際社会において活躍する意思と情熱を持つ女性を育成し、その勉学の一助とすることを目的としており、毎年、

主に都内の大学より推薦を受けた候補者の中から奨学生を決定し、奨学金を授与しています。

2012年度、学内からは5名の応募者があり、学内選考を経て、本選考会での面接審査の結果、下記の方への奨学金給付が決定しました。

■ 2012年度奨学生

大学院国際関係学研究科 後期博士課程3年 山田 朋美

2012年度 課外活動奨励金受給団体決定

課外活動奨励金は、グループで行う課外活動（サークル活動や自主ゼミ等）を大学として積極的に支援し、学生生活の活性化を図るための奨励金制度です。また、特に優れた実績をあげた団体には「特別賞」を

授与することがあります。

今年度の課外活動奨励金受給団体は、面接の結果、次のとおり決定しました（順不同）。

団体名

シェイクスピア研究会	津田塾大学弓道部	Baloncestas
フェアトレード推進団体チカスウニダス	津田塾大学英語会 TESS	ALL 一橋大学競技ダンス部
津田塾大学バレーボール部	学生団体レアスマイル	津田塾大学放送研究会
ピースアートプロジェクト	グラシェールスキーチーム	ソフトテニス部
津田塾大学表千家茶道部	陸上競技部	津田塾大学卓球部
一橋大学・津田塾大学ボクシング部	小原流華道部	津田塾大学箏曲部
一橋大学津田塾大学吹奏楽団	津田塾大学剣道部	津田塾大学小学生英語のひろば
草月流華道部	一橋大学津田塾大学少林寺拳法部	津田塾大学フィールドホッケー部
合気道部	津田塾大学国際協力サークル kibo	アンサンブル・フィオリータ
体育会ゴルフ部	津田軽音	ギターアンサンブル
津田塾大学ダンスナッツ	3年セミナー	
津田塾大学書道部	Do! Tennis Team	

2012年度 課外活動奨励金受給団体活動報告

津田塾大学 フィールドホッケー部

国際関係学科3年 武江 悠加

津田塾大学フィールドホッケー部は4年生が3人、3年生が4人、2年生が3人、1年生が5人の計15人で活動しています。春と秋に行われるリーグ戦に向けて授業期間中は週3回、長期休暇中は週4回練習しています。また、長期休暇中には合宿も行っています。合宿先のコーチの方々から多くのことを学べる貴重な機会です。その他にも年に1度行われるフェリス女学院大学との交流試合や、他大学との練習試合・合同練習を通して、交流を深めています。

部員のほとんどは未経験者です。その上専任コーチがいません。そのため、皆で意見を出し合いつつ練習を行っています。学年関係なく部員同士の関係がよいのがチームの特徴です。メンバーに出会えただけでもホッケーをしてよかったと思うチームだと感じています。

今年の春季リーグでは順位を2ランク上げ、女子2部の4位になることができました。秋季リーグでは主力メンバーの一部が留学等で抜け、厳しい試合が続いています。しかしチーム一丸となり試合に臨んでいきます。

私たちは日頃、多くの方に支えられて活動を行っています。支えて下さる方々に感謝しつつ、その方々に日頃の成果を示すことができるよう、これからもがんばっていききたいと思います。



津田塾大学 少林寺拳法部

英文学科3年 長谷川 璃沙

津田塾大学少林寺拳法部は一橋大学少林寺拳法部と合同で週4回の練習に励んでいます。ほとんどの部員が大学から少林寺拳法を始めており、監督や先輩に技を教えていただき、お互いに指導しあいながら楽しく練習しています。

私たちは、年に数回行われる昇級・昇段審査と毎年5月に開催される関東大会、そして11月に行われる全日本大会に向けて日々練習しています。また年に2回ほど合宿があり、他大学との交流や技術向上に励んでいます。2月に香川で行われる本山合宿では、全国各地から大学の拳士が集まり、資格ごとにわかれ、一週間ほど練習を行います。9月に新潟で行われる夏合宿では、朝から夜まで、メリハリをつけながら自分の限界と思えるところまで挑戦します。どちらの合宿もつらいときはありますが、苦手な技を習得できたり、少林寺拳法を通して新しい友達ができることは、練習への更なる励みになります。

来年は一橋支部が創立40周年を迎える節目の年となります。先輩

方の築き上げられた伝統を絶やすことなく、さらにこの部活をよりよくしていけるように、部員一同精進していきたいと思います。

これからも津田塾大学・一橋大学少林寺拳法部をよろしく願っています。



津田塾大学フェアトレード推進団体 チカス・ウニダス

英文学科2年 木村 舞美

こんにちは。私たちはフェアトレード推進サークルChicas-Unidas（チカス・ウニダス）です。今年でサークル設立から8年をむかえ、現在は約20人で活動しています。

私たちの主な活動はフェアトレード商品の販売です。ペルーのスラム街に住む女性団体ムヘレス・ウニダスが作った手工芸品を販売しています。夏は手刺繍のエコバッグ、冬はアルパカの毛から作られたマフラーやニットを主に販売しています。チカスウニダスで扱っている全ての商品はフェアトレードというだけではなく、ハンドメイドの一点ものです。このような点から商品は日々、購入者の方々からは高い評価をいただいております。また、日本での売上金を全額送金することで、生産者団体であるムヘレス・ウニダスの生活支援をしています。商品販売は津田塾祭の他、津田塾生協、フェアトレードイベントなどでも行っています。

また、昨年度からは新しく「まちチョコ」というプロジェクトにも参加し始めました。「まちチョコ」とはフェアトレードのチョコレート

トに市民の方から募集したパッケージデザインを学生がアレンジし、市内限定で販売するプロジェクトです。フェアトレードをより手軽に、より身近に、そしてより多くの方に知っていただくことが目標です。「まちチョコ」プロジェクトは他大学にて数年前から行われているものですが、チカスウニダスは昨年度初めて参加しました。企画から販売終了までの道のりは困難もありましたが、小平市内の「まちチョコ」を取り扱っていただいた店舗をはじめ、多くの方々にご協力していただき、無事に目標個数を販売することができました。



津田塾大学 放送研究会

英文学科3年 大原 初樹

皆さん、こんにちは。私たち津田塾大学放送研究会は、現在29名で活動しているサークルです。普段は、毎週月・水・金の昼休み日に学内でアナウンス練習をしています。また、前期と後期に1回ずつ番組発表会を開いています。そこではDJ、ラジオドラマ、バラエティ番組、映像制作などの作品を作って、日頃の成果を発表しています。その他にも、FM西東京というコミュニティFM（ラジオ局）で毎週火曜日、夕方18時30分～18時45分に15分間の生放送番組を制作しております。放送、表現に関わることならなんでも出来るサークルです。話すこと、表現することが好きな人にとってはぴったりのサークルだと思います。一人ひとりが目標や目的を持って積極的に行動し、アナウンサーを目指している部員もいます。また、表舞台に立つばかりではなく、裏方で機械を操作して皆をサポートしたり、映像を

制作できるのもこのサークルの魅力です。部員は皆仲が良く、先輩後輩関係なく和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。また11月17日(土)には、日頃の活動成果を発揮する放送研究会の一大イベント、番組発表会を行いました。



女性研究者支援センター

「女子中高生のための情報・メディア工房2012」

女性研究者支援センターでは、2012年8月21日と23日に、「女子中高生のための情報・メディア工房2012」を開催しました。このイベントは、女子中高生に、情報・メディア分野の魅力を伝え、同分野への進路選択を促すことを目的としています。両日とも、午前中は情報通信分野の企業を訪問し、午後は千駄ヶ谷キャンパスにおいて、情報・メディア技術を利用するワークショップに参加する日帰りのイベントを実施しました。全国から約70名の応募があり、その中から抽選で選ばれた、中学1年生から高校3年生まで32名が参加しました。

8月21日の参加者は15名で、午前中は、飯田橋にあるKDDI本社で、KDDIのサービスや技術を見学した後、女性技術系社員の方からKDDIでの仕事の内容や、その仕事をするようになった経緯などを伺いました。午後は、「モーションセンサーワークショップ」に参加しました。このワークショップでは、スクラッチというプログラミングツールを使い、手足の動きを検出するMicrosoft社の入力コントローラKinectも利用して、身体の動作を利用したゲームプログラムを二人一組で作成しました。

8月23日の参加者は17名で、午前中は、日本橋箱崎にある日本IBM本社を訪問し、女性技術系社員の方を囲み、現在の仕事の内容などを伺う座談

会にまず参加しました。その後、ソリューション・センターを見学し、IBMにおける研究プロジェクトの説明を受けました。午後は「スマホアプリ開発ワークショップ」に参加し、App Inventorという初心者向けの開発ツールを使って、さまざまな音を出す楽器演奏アプリを作りました。作成したアプリは、実際にAndroid携帯端末にダウンロードし、最後にチームで合奏を行いました。

参加者からは「企業訪問とワークショップを組み合わせているのは、自分が働いているような気分が味わえてとてもよいと思います」、「このイベントに参加し、大学で情報科学を学びたいと思うようになりました」といった感想が寄せられました。両日のイベントの様子の詳細は <http://rikei.tsuda.ac.jp/2012.html> で公開しています。



学生報告：日本語ライティング講座

「都心は遠い。でも、教授は近い。」

本学ライティングセンターは、文章の個別指導を行う他、様々な講座・講演会を開催し、学生の「書く力」を伸ばす場として重要な役割を担っています。

今回はその講座のひとつを受講した学生に感想を寄せてもらいました。(タイトルはこの学生が講座内で作成した津田塾大学のキャッチコピーです。)

イメージさせることばづくりを

国際関係学科3年 松田 葵

— さらさらしたことばよりも、ザラザラしたことば
— ついエキスクーズしたくなるようなことばを考える —

私が日本語ライティング講座13「コトバと遊ぶ、コトバを選ぶ」を受講しようと思ったのは、講師である花岡邦彦先生の「コピーライター」という職業にもともと興味があり、もっと詳しく知りたいと考えたからでした。

花岡先生の講義は全部で4回行われ、コピーライターという職業は具体的にどういったもので、どのようなコピーならば効果的にメッセージを受け手に伝えることができるのかといった内容を中心に進められました。

先生のおっしゃっていたことばのなかでもっとも印象的だったのは、「コミュニケーションの中でいちばん大事なものはイメージ。受け手がイメージできる余地をことばの中に残しておく。」ということです。すべ

てを説明してしまうのではなく、ことばにざらつき感をもたせて受け手を立ち止まらせ、考えさせる。普段、コミュニケーションをとる上で意識したことのないようなことだったので衝撃を受けました。

最後の講義では、津田塾のキャッチコピーをいくつか提出し、先生に選んでいただいたものをオープンキャンパスで掲示するという貴重な体験をさせていただきました。実際に書いてみるキャッチコピーは、どれもありきたりなものになってしまい、「いいものができた!」と思っていてもあとから見てみるとそうでもなかったり、「優等生なコピー」は書いても、「納得のいく良いコピー」は難しかったり。この講座を通して、広告コピーの魅力にさらに引き付けられていました。

今回の「コトバと遊ぶ、コトバを選ぶ」も含めて、ライティングセンターが企画している放課後講座は、どれも役に立つ「生きた授業」ばかりです。津田塾生にこの講座の存在があまり知られていないのはもったいないような気もしますが、内緒にしておいてしまいたいような気もしています。

〈この講座を受講した学生のキャッチコピーの一部〉

輝く。フロンティアな女。

キャンパスは戦場だ。

創設以来110年、
休まず勉強しております。

知るだけでは、
物足りないあなたへ。

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に 「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」 が採択されました

津田塾大学取組責任者／ライティングセンター長 高橋 裕子（英文学科教授）

文部科学省が募集した平成24年度大学間連携共同教育推進事業に、本学と関西大学とが連携取組として申請しました「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が採択されました。今回の事業には、全国の国公立大学等から153件の申請があり、49件が選ばれました。取組期間は平成24年度～28年度までとなります。

この取組の内容について、取組責任者でもある本学ライティングセンター長 高橋裕子教授より紹介の記事をお寄せいただきました。

津田塾大学は、平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「社会貢献は書く力とプロジェクト推進力から」の取組で、2008年11月に、学生の「書く力」を磨く場としてライティングセンターを設立しました。本センターはこれまで、文章の個別指導を行うほか、さまざまな講座や講演会シリーズなども開催し、学生の皆さんのコミュニケーション力を高め、リーダーシップを発揮する女性を育てることで、社会に貢献できる人材の養成を目指してきました。

今回、文部科学省が募集した平成24年度大学間連携共同教育推進事業に、本学と関西大学とが連携取組として申請した「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が採択されました。本学のキャリア支援を重視したライティングセンターと関西大学のアカデミック・ライティングを中心とした卒論ラボが連携することで、本学のライティングセンターの活動をさらに充実させていく計画です。

本取組では、ライティング支援を通して〈考え、表現し、発信する力〉を育成します。アカデミック・ライティングとは、資料を探索し読解し理解する力、データを分析し総合する力、自分の見解を論理的に考え、構成して表現する力、それを発表して相手に伝える力、さらには、相手とコミュニケーションをとり、その中で相互理解を形成する力に至るまでの多様な力を含むものと捉えています。〈文章を書く〉という最も基本的な力を核にして育成されるこのような〈考え、表現し、発信する力〉は、社会の中でコミュニケーションをはかりながら主体的に考え生きていくために必須な力であり、そこにおいてライティング支援とキャリア支援は表裏一体の関係にあると言えます。文章作成だけでなく、もっと幅の広い発信力を本取組では培いたいと考えています。

具体的には、次の二つの目的を達成できるよう5年間の計画を練りました。

①「主体的学び」の確立による大学教育の質的転換

現在求められている学士課程教育の質的転換を実現するためには、学生の基礎的能力の向上と主体性の獲得が不可欠ですが、授業カリキュラムだけではその実現は十分ではありません。そこで、ライティングセンターが授業、課外活動や就職活動等と密接に連携し、個々の学生のニーズに対応したサポートを実施します。これによって、学生の主体的態度が涵養され、学修時間も増加することで、教育の質的転換が図れるようにと考えています。

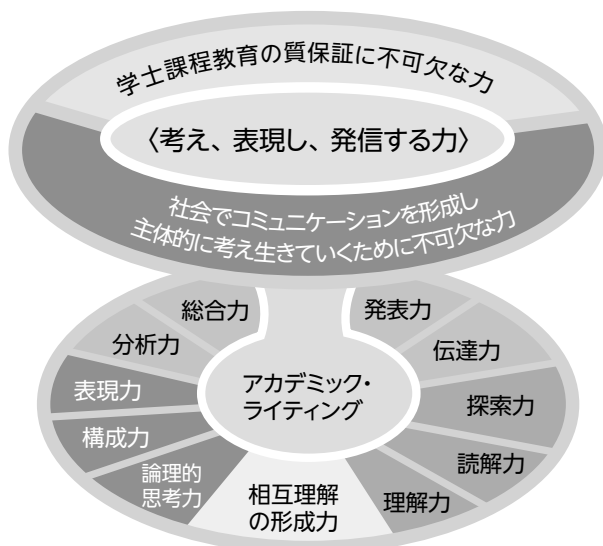
② 主体的に考えると同時にコミュニケーションを形成・深化しうる人材の育成

学士課程教育を通して、社会に求められる多様な能力が育成されることによって、学生のキャリア形成を促し、社会の中で主体的に考えると同時にコミュニケーションを形成・深化しうる人材を育成することを目指しています。このような人材は、予測困難な時代の中で、社会への主体的な関わりを通して、21世紀の新しい男女共同参画社会を推進していける人材でもあります。こうした人材を育成して社会に送り出すことを、本連携取組の最終的な目的としています。

日本よりも先んじて大学の大衆化を迎えた米国では、初年次教育だけでなく、学部教育の全段階において、個々の学生のニーズに応えられるアカデミック・スキル向上のための支援が豊かに展開されてきました。その核となってきたのが「ライティングセンター」ですが、現在では単に文章の指導ばかりでなく、ICT技術の進展とともに登場したパワーポイントなどの発表ツールの活用にも対応した、〈考え、表現し、発信する力〉を向上させる支援が効果的に施されています。このような先進的な事例も参考にしつつ、関西大学との連携事業を通して、全国のモデルとなるようなライティングセンターを目指していきたいとこれからの5年間を見据えて様々な計画を立てています。

具体的取組としては、[1] ライティングセンターの機能拡張による支援体制の充実、[2] ライティングに特化したeポートフォリオシステムの開発、[3] 客観的な評価指標の確立、[4] 教育カリキュラムとの密接な連動、[5] 多様な社会連携を実施します。The Writing Centers Association of Japan、国立女性教育会館、朝日新聞社等の多様なステークホルダーとも密接に連携して、日本の教育環境に適したライティングセンターを整備していきます。

今回の事業の申請のために、関西大学とは20回近くのテレビ会議等を通じて意見交換を行い、これまで培ってきたリソースを互いに活用しながら、より効果的なプログラムを構想できるよう工夫を重ねました。学生の皆さんのさらに積極的なライティングセンターの利用を期待しています。活動内容の詳細は本学ライティングセンターのウェブサイト〈<http://twc.tsuda.ac.jp/>〉をご参照下さい。



寄付者ご芳名 ～ご協力に感謝致します。

以下のとおりご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

東日本大震災被災学生支援募金寄付者ご芳名

(順不同 掲載希望者のみ 2012年9月30日現在)

金山 英樹 様	山川 仁 様	岡安 晃 様
弓削 浩 様	鈴木 康正 様	椿 清文 様
水谷 正大 様	田畑 明 様	阿部 威郎 様
森 吉夫 様	土橋 恭彦 様	奥野 芳隆 様
木村 朗子 様	宇田川史子 様	高橋 静渡 様
土屋 雪子 様	小野栄里子 様	中村 士郎 様
稲川 薫 様	木村 姫子 様	花尻 恭子 様
馬場すみ子 様	木崎 和子 様	久末 佳枝 様
辻 佳子 様	築野 富美 様	飯森 明子 様
伊勢田奈緒 様	小林 登子 様	湯浅もと子 様
黒山 照子 様	初鹿野晴恵 様	大平 壽子 様
多田 恵子 様	吉田 繁子 様	宮前 和代 様
小林 仁美 様	金子 祥代 様	筑瀬 靖子 様
鷺見八重子 様	久保内総子 様	瀬川ゆかり 様
小田 信治 様	新庄 方子 様	佐藤 暉 様
佐原 亜子 様	国本 睦子 様	小嶋 裕子 様
鈴木 邦子 様	堂園 浩二 様	内田 寛 様
葛西 禮子 様	Canty 敬子 様	永瀬百合子 様
遠藤 有美 様	中川 洋子 様	春山 多喜 様
中西 紗織 様	小鍛冶百合子 様	竹田 晃 様
安井久美子 様		他253名様

教育振興資金寄付者ご芳名(順不同 掲載希望者のみ 2012年9月30日現在)

飯野 暢 様	飯野 彩 様	金山 英樹 様
山川 仁 様	吉田 広志 様	岡安 晃 様
弓削 浩 様	細谷 昌樹 様	厚見 正充 様
鈴木 康正 様	田畑 明 様	阿部 威郎 様
青木 伸子 様	中村 士郎 様	小田 信治 様
中村真一郎 様	堂園 浩二 様	内田 寛 様
竹田 晃 様		他77名様

東日本大震災被災学生支援募金

2011年12月から始めました募金活動は、卒業生、在学生の保護者、教職員並びに本学の役員、評議員の皆様からご賛同をいただき、2012年10月現在で2,620万円を超えるご寄付を賜りました。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

これまでにお寄せいただきました貴重なご芳志は、被災した学生のために学費の減免や修学支援金の給付に活用させていただきました。また、被災地域からの受験生の入学検定料の免除につきましても、昨年度と同様に今年度も実施いたします。

当初、募集期間は今年12月をもちまして終了する予定でしたが、厳しい経済状況のなか、復興には今しばらくの時間と支援が必要と思われます。そこで、2013年12月まで募金活動を継続して行うことといたします。本学の被災学生が安心して学生生活を送れますよう、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

寄付申込状況(2012年10月31日現在)

1,748件 26,200,702円

お問い合わせ 経理課 Tel 042-342-5125
E-mail: keirika@tsuda.ac.jp

記念館耐震改修工事が終了しました

昨年の大震災の際に、記念館3階体育館天井が一部崩落する被害があり、報道をご覧になった皆様にはご心配をおかけしました。2011年度に耐震改修工事として、体育館の屋根・天井等の大改修工事及び1階食堂、2階部室フロアの耐震壁設置工事を行いました。またこれらの工事を機に2階部室フロアをより効率よく利用できるよう全面改修し、1階食堂トイレ改修工事も合わせて実施しました。食堂1階には2階フロアに続く内階段が設けられ、2階にはサークル以外の学生も利用できる共有スペースができました。



1 階食堂より



2 階共有スペース

文学研究科出版助成費について

卒業生の鷺見八重子様のご寄付により、本学大学院文学研究科後期課博士課程修了者の方を対象に学位論文またはそれに相当する論文の出版費用を援助する制度ができました。詳細については教務課までお問い合わせください。

教務課 Tel 042-342-5130

各国大使、本学を訪問

駐日フィンランド大使講演

6月28日(木)

駐日フィンランド大使ヤリ・グスタフソン氏をお招きして、津田塾大学公開講座「総合」において、「フィンランドの常識=日本の非常識」と題した講演を行っていただきました。



駐日南アフリカ共和国大使来校

9月20日(木)

南アフリカ共和国大使館駐日特命全権大使モハウ N. ベコ様が飯野学長を表敬訪問され、学長、学務担当補佐と歓談後、中庭で記念撮影を行いました。(本学関係者の肩書きは訪問当時のもの)



理事会・評議員会開催報告

▶ 第210回理事会 2012年9月28日

【報告事項】

1. 寄附行為変更認可について
2. 千駄ヶ谷キャンパスの活用について

【審議事項】

1. 2012年度(平成24年度)補正予算(案)に関する件
2. 教授会選出理事選挙規則の一部改正に関する件
3. 教職員会選出評議員選挙規則の一部改正に関する件
4. 本学教職員給与の改正案に関する件

▶ 第211回理事会 2012年10月5日

【審議事項】

1. 理事の選任に関する件
2. 理事長の選任に関する件

▶ 第212回理事会 2012年10月5日

1. 理事長の辞任に関する件
2. 理事長の選任に関する件

▶ 第213回理事会 2012年10月30日

【審議事項】

1. 学長、理事(財務担当学長補佐)選任に関する件

▶ 第161回評議員会 2012年10月30日

【報告事項】

1. 理事長の交代について

【諮問事項】

1. 2012年度(平成24年度)補正予算(案)に関する件
2. 学長の選任に関する件

▶ 第214回理事会 2012年10月30日

【報告事項】

1. 千駄ヶ谷キャンパスの活用について

【審議事項】

1. 学長、理事(財務担当学長補佐)の選任に関する件
2. 千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社社員の選任に関する件
3. 2012年度(平成24年度)補正予算(案)に関する件
4. 2013年度(平成25年度)学費改正(案)に関する件

ようこそ、津田塾大学へ

2012年9月、7名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。
皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

写真：後列左端より時計回り

リタ・エンター 国際関係学科
ウエスタン・ワシントン大学 (米国)

アイオナ・グラント 国際関係学科
エディンバラ大学 (英国)

ブリッタンニー・ブルトス 国際関係学科
ウエスタン・ワシントン大学 (米国)

シャーイン・ボイス 国際関係学科
スペルマン大学 (米国)

ジェニー・ワン 国際関係学科
ブリン・マー大学 (米国)

カリナ・リンダー・ヒメズ 国際関係学科
ウエスタン・ワシントン大学 (米国)

シャウラ・サントス 国際関係学科
フィリピン大学



9月に入学した交換留学生の皆さん

四女子大学共催イベント

「第6回サイエンスフェスティバル」開催

2012年8月26日、東京女子大学にて、お茶の水女子大学、東京女子大学、日本女子大学、津田塾大学による四女子大学共催イベント「サイエンスフェスティバル」が開催されました。女子中高生の理系分野での進路選択を支援するために始まったこのイベントも6回目を迎え、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構長及びカリフォルニア大学バークレー校教授でもある村山育先生の特別講演「宇宙はなぜこんなにうまくできているのか」から始まり、OGによる理系の仕事を語るパネルディスカッションや理系学生・院生との懇談などが行われました。本学学生も自分の研究テーマの発表や高校生との懇談などに参加し、回を重ねることに参加者が増え、活気が増している様子や中高生の熱心さを実感していました。保護者の方にも好評だったようです。

翻訳コース作成冊子紹介 学生報告

2011年度翻訳コースの学びを形に残し集大成とするため、私たちは1年間テキストとして扱ったMona Baker教授の論文「Narratives of terrorism and security: 'Accurate' translations, suspicious frames」の抄訳に挑戦しました。冊子には私たちが取り組んだ抄訳、そして翻訳コースOGの先輩方のご協力で、昨年度来日されたBaker教授の講演録が記載されています。直接講演をお聞きする機会に恵まれ、私たちは翻訳学の最新の動向とBaker教授のパワーに大きな刺激を受けました。Baker教授はイギリスで最先端の翻訳学を研究しておられ、冊子の論文や講演ではThe Middle East Media Research Institute (MEMRI) の翻訳活動に言及し、翻訳の多様性、翻訳の外側にある政治的・文化的要素、翻訳の果たす役割、そして「翻訳」とは何かという問題に最新の理論を展開しています。翻訳コースの履修生として実践的な訳す力を高めるだけでなく、それまで触れたことのなかった学問としての翻訳を学ぶことは新発見の連続でした。Baker教授の生の講演をお聞きした貴重な経験は私たちの翻訳学に対する理解を深め、抄訳に活かしています。1年を通して翻訳について考え続けたことは私たちの大きな力になりました。

(英文学科4年 大野彰子)



パイプオルガン講習会を開催しました

本学の交流館内チャペルにはパイプオルガンがあり、学内の礼拝を行う際に演奏されています。あまり触れる機会がない方にも知っていただくという目的のもと、去る6月9日(土)にパイプオルガン講習会を開催しました。講師には川越聡子氏(所沢市民文化センター MUSE 初代ホールオルガニスト、洗足音楽大学講師)をお招きし、パイプオルガンの仕組み、奏法、歴史について幅広くお話ししていただきました。また実際にオルガンを弾きながら、曲に合わせた音程の変え方、空気を送って音を出すオルガンの特性を生かした弾き方などを体験しました。



最終講義のご案内

今年度で定年を迎えられる教授の最終講義を、以下のとおり予定しております。在学生、卒業生問わず、ぜひご出席ください。

英文学科 飯野正子 先生

「津田梅子と津田塾大学の歴史—ひとりのアメリカ史研究者として—」

■日 時：2013年1月21日(月) 2限 10:30～12:00

■場 所：1111教室

■お問い合わせ：英文学科事務室 Tel. 042-342-5150

国際関係学科 小倉 充夫 先生

津田塾大学の私と研究・教育

■日 時：2013年1月31日(木) 14:50～16:20

■場 所：1111教室

■お問い合わせ：国際関係学科事務室 Tel. 042-342-5155

※なお、国際関係学科 林哲教授、高崎宗司教授も退任されますが、最終講義は行いません。

2013年度 一般入学試験日程

	A方式 (大学独自入試)			B方式 (センター試験+個別学力試験)			C方式 (センター試験のみで選考)		
	出願期間	試験日	募集人員	出願期間	試験日	募集人員	出願期間	試験日	募集人員
英 文 学 科	2013年 1/4(金)～ 1/28(月)	2/6(水)	110	2013年 1/4(金)～ 2/19(火)	3/1(金)	30	2013年 1/4(金)～ 1/18(金)	個別試験は 実施しません	40
国際関係学科		2/5(火)	155		2/28(木)	25			30
数 学 科		2/7(木)	25		2/28(木)	5			5
情 報 科 学 科		2/7(木)	25		2/28(木)	5			10

ウェルネス・センター公開講座

お問合せ:ウェルネス・センター TEL042-342-5147 まで
場 所:小平キャンパス FAX042-342-5144

第5回 『「希望のアフリカ」と国際関係』

- 講 師:小倉充夫氏(本学国際関係学科教授) ■日 時:2012年12月3日(月) 13:00~14:30
■会 場:小平キャンパス 5号館 5101教室 ■聴講料:無料
■対 象:どなたでも参加いただけます。
■申し込み方法:ハガキまたはFAXで住所、氏名、電話番号をご記入の上、ウェルネス・センターまでお送りください。
(お申し込み後、こちらから連絡がない限り受講可能です。)

総合2012「常識?」～真実か、幻想か～

お問合せ:教務課 TEL042-342-5130 まで
場 所:小平キャンパス

- 日 時:授業期間中の毎週木曜日 13:00~14:30 ■会 場:新館特別教室
■聴講料:不要 ■対 象:どなたでもご参加いただけます。
■聴講手続き:申し込み不要。本学正門守衛所にて住所・氏名等をご記入ください。
先着100名。満席の場合、入場をお断りすることがあります。

2012年度【後期】12月以降の講演者

- 12月6日 新井英夫氏(体奏家/ダンスアーティスト) 12月20日 名本光男氏(城西国際大学 准教授)
12月13日 牛窪 恵氏(南インフィニティ代表取締役/マーケティングライター) 1月10日 池川 明氏(池川クリニック院長)

クリスマス礼拝

- 日 時:2012年12月12日(水) 14:40~16:10
■場 所:津田梅子交流館内 岡島記念チャペル
■説教者:柿内ルツ(イスラエル政府観光省公認日本語ガイド、日本ホーリネス教団所属、東京聖書学院・聖書地理講師)
■説教題:Baby Jesus 一まぶねの中の救い主ー

クリスマスイルミネーション点灯

本学の冬の風物詩、ハーツボン・ホール(2001年東京都選定歴史的建造物指定)前のヒマラヤ杉が今年もライトアップされ、キャンパスに彩りを添えます。

◆点灯期間:12月5日(水)~12月26日(水) 16:30~21:30



バイブルランド写真展

お問合せ:総務課 TEL042-342-5111 まで
場 所:小平キャンパス

クリスマス礼拝説教者・柿内ルツ氏の見線から、イエス・キリスト生誕の地、ベツレヘムを中心に、遠い異国の地をご紹介します。

- 日 時:2012年12月6日(木)~12月20日(木) (土日は休館日)
■場 所:津田梅子交流館内 スペース1
■時 間:9:00~16:00 ■観覧料:無料
■主 催:津田塾大学 ■共 催:津田梅子記念交流館

第十回津田塾大学梅子杯争奪 学生英語弁論大会のお知らせ

大会コンセプト: Challenge the Future ~with the footsteps of gratitude~

「津田塾大学梅子杯争奪学生英語弁論大会」(通称:梅子杯)とは、津田塾大学英語会(TESS)が主催する大学生による英語スピーチの全国大会です。毎年全国の大学より多くの応募をいただき、予選審査を突破した10名のハイレベルなスピーカーを招き開催しています。

津田塾大学の創立者津田梅子先生のお名前を頂戴し、開催する本大会も今年度で第十回を迎えます。教育を通して日本の女性の地位向上のため強い信念を持って尽力された津田梅子先生のように、熱い想いを秘めた10人のスピーカーにその想いを発表していただく舞台となっています。例年レベルの高い大会として外部の方々からもお褒めの言葉をいただいております。同時に女子大らしいアットホームで温かみのある運営も高く評価していただいております。今までスピーチ大会へ足を運んだことの無い方にも楽しんでいただけたらと思います。

第十回という大きな節目の年を迎える梅子杯。記念すべき今年度の大会と未来に挑むスピーカーたちの熱い想いを是非ご覧いただければと思います。

- 開催日:2012年12月8日(土) ■タイムテーブル:未定(HP上で決定次第お知らせします)
■会 場:西東京市民会館 公会堂(西武新宿線:田無駅より徒歩10分)
■お問合せ:umekocup.12@hotmail.com ■HP:http://10thumekocup.jimdo.com/



昨年の受賞者